令和８年１月８日

３学期始業式　校長の話

皆さん、おはようございます。新しい学期の始まりに、こうして皆さんの元気な顔を見ることができて、とても嬉しく思います。

一方で、大きな地震がありました。今月６日には鳥取県、島根県で、先月は青森県で、２年前には能登半島で大きな地震がありました。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げるとともに、一日でも早い復興をお祈り申し上げたいと思います。

さて、今日は３学期の始業式、１年の始まりにあたり大きく３点お話しします。

１点目は、感謝の気持ちが作り出す、想像を超える力についてです。

今年のお正月も、多くの方が箱根駅伝をご覧になったのではないでしょうか。青山学院大学が見事に 3 連覇を果たしましたが、その中でも、私が特に印象的だったのが、5 区の山登りを走った 黒田朝日選手 の走りでした。

黒田選手はこれまで 2 区のエース区間を任されてきた選手ですが、大学最後の箱根で初めて 5 区に挑戦しました。小田原中継所では先頭と 3 分以上の差があり、5 位でタスキを受け取り、優勝は難しい状況でした。

しかし黒田選手は、決してあきらめることなく、そこから驚くようなペースで山を駆け上がり、なんと 4 人抜きの大逆転。さらに、前回の区間記録を 約 2 分も更新する区間新記録 を叩き出し、青山学院大学の 3 連覇を決定づける走りをしました。

レース後のインタビューで黒田選手は、支えてくれた仲間や家族への感謝の気持ちを述べています。人間的にも大変立派だなと思います。

人は、自分一人の力だけで大きなことを成し遂げることはできません。今回の黒田選手のように、周りの人への感謝の気持ちが、自分の実力以上の力を引き出してくれることがあります。

今日から新しい学期が始まります。

勉強でも部活動でも、あるいは日々の生活でも、壁にぶつかることがあるかもしれません。そんなときこそ、皆さんを支えてくれている人たちの存在に目を向けて、具体的には、仲間、家族、先生たち、その存在に気づ

き、感謝の気持ちをもって、自分の想像を超える力を発揮して更に飛躍をしてほしいと思います。

次に２つ目は、自分の未来を切り開くことについてです。
昨日の埼玉新聞の記事で、笑顔を届ける　高校生社長　という見出しの記事がありましたので、その紹介です。

高校３年生でキッチンカーを経営する高校生社長として毎週日曜日に出店して、活躍する生徒の紹介記事で、キッチンカーでの経営は昨年、能登半島地震の復興支援のための炊き出しに参加し、会社を興そうという気持ちが芽生えたそうです。

その後、この生徒は食品衛生責任者の資格を取り、税務署への開業届も自分で行い､小さな幸せを届けたいという思いから､昨年９月に開業して、経営を始めたそうです。新聞記事の後半にはこのようなことが書いてありました。読みますね。
「中学時代は陸上部の副部長、高校では箏曲部の部長を務めた。将来は理容師を目指し、この春から専門学校に通う。キッチンカーの経営は、あくまで夢をかなえるための手段。「親に頼らず学費を出せるようになりたい」としっかり前を向く」と書いてあります。※埼玉新聞より引用

自分の夢を実現させるために、新しいことに挑戦している、行動する姿がとても素晴らしいなと思いましたのでこの記事を紹介しました。生徒の皆さんも夢を持つことをエネルギーに変えて行動し、この生徒のように、自分の未来を、自分で切りひらいていってほしいと思います。

最後に３つ目は、日常生活の大切さについてです。
私たちの日常の生活は、小さいことや当たり前のことの連続です。生徒の皆さんにとっての日常はどのようなことがありますか？毎日学校に通う、挨拶をする、身だしなみを整える、また、授業を受ける、部活動、アルバイトなどがあると思います。

毎日学校に登校することで、規則正しい生活習慣や体力、忍耐力などが身につくと思います。また、授業や部活動の中で、知識、判断力、協調性、体力、コミュニケーション力、礼儀やマナーなど、将来、生きていくうえで大切なことを身につけていくことができると思います。

したがって、毎日登校するということは、楽しいだけでなく、時には、苦しい時もあるかもしれませんが、生徒の皆さんには、この当たり前のこと、やるべきことを着実に行えば、いろいろな力が身につき、将来は必ず良い方向に向かっていく、ということを頭の中に入れて、日々の学校生活を大切にしてほしいと思います。

さて、３年生の大部分の人にとって三学期は高校生活最後の学期となり、学校に登校することも正味二十日間程度となります。卒業に向け、一日一日を大切に過ごし、「終わりよければすべてよし」と言えるようにしてください。

また、１，２年生にとっては、３学期は進級認定が絡んでくる大切な時期です。高校入試や卒業式などもあり、３学期はあっという間に過ぎてしまいます。欠点保有者や欠席・遅刻の多い人は、本気になって心を入れ替えないと進級できないことも考えられます。本気でやれば大抵のことは実現できるものです。全員の１、２年生が進級できることを願っています。

それでは、今年令和８年、２０２６年が生徒、先生方にとって素晴らしい飛躍の年となることを願って、私からの話を終わりにします。